

令和7年1月27日

石巻市議会議長 遠藤 宏 昭 殿

会 派 名 石巻あかつきの会  
代表者名 会長 木 村 美 輝

## 調 査 報 告 書

調査した概要は次のとおりであります。

### 記

- 1 調 査 者 氏 名 木村美輝、勝又和宣、原田豊
- 2 調 査 期 間 令和7年1月15日から  
令和7年1月17日まで 3日間
- 3 調 査 地 (1) 埼玉県新座市  
及び調査内容 ・官学連携協働での不登校支援について  
(2) 一般社団法人シモキタ園藝部（東京都世田谷区）  
・官民連携での居場所づくりについて

### 4 調 査 目 的

#### (1) 埼玉県新座市

- ・官学連携協働での不登校支援について

新座市は令和5年9月から、学校に行きづらさを感じている児童・生徒のために、新座市教育支援ルーム「とことこぷらすのへや」を開設し、不登校支援に取り組んでいる。

とことこぷらすのへやは、地域の拠点大学である十文字学園女子大学と連携し、大学生ボランティア等と一緒に、個々のペースに合わせた学習、体験活動を通した協働学習など、児童・生徒にとって一人一人が人との交流や学びを感じられ、安心できる居場所となっている。

本市においても学びサポートセンターなど、子どもの居場所づくりに取り組んでいるところであるが、複雑化する社会の中で児童・生徒の不登校は、年々増加傾向にあり、今後、より一層の支援が求められることから、新座市の事業を視察する。

(2) 一般社団法人シモキタ園藝部（東京都世田谷区）

・官民連携での居場所づくりについて

東京都世田谷区では小田急線の線路地下化工事に伴い、小田急電鉄と地上部の線路跡地について、新しいまちづくりへの利活用を協議、検討し、世田谷区が公共空間の通路や広場を整備し、小田急電鉄が商業施設やホテル、住宅、広場などをそれぞれ整備した。その一部として緑地計画も付随し、市民団体であるシモキタ園藝部が管理を行うこととなり、2020年に一般社団法人として発足した。

現在は、シモキタ線路街の管理、植栽のメンテナンスを行い、地域の人やその場所を大切にしている方と一緒に、年代や性別、職業も多様な人が交流する、自然に寄り添い共存するための居場所づくりに取り組んでいる。

身近にある公園や土地をどのようにして人々が集う居場所にするのか。また、市民団体がどのようにして行政と歩幅を合わせて公園事業を進めていったのか。その手法について見識を深め、本市で進んでいる北上地区や中瀬地域の緑地計画事業へ還元することを調査目的として視察を行う。

## 5 調査概要

(1) 埼玉県新座市

・官学連携協働での不登校支援について

新座市は埼玉県の最南端に位置し、東は朝霞市、南は東京都練馬区、西東京市及び東久留米市、西は東京都清瀬市及び埼玉県所沢市、北は埼玉県入間郡三芳町及び志木市と境界を有し、総面積は22.78㎢、都心から25㎞圏内に位置している。

市域の北側に東部東上線「志木駅」、中央部にJR武蔵野線「新座駅」が開設されているほか、近隣としての南側に西武池袋線「ひばりヶ丘駅」、「清瀬駅」等の私鉄駅があり、市民等の通勤、通学の足として鉄道網が整備されている。

また、市立小学校17校、市立中学校6校、私立中学校2校、県立高等学校3校、私立高等学校2校、私立大学3校を有する文教都市であり、人口約16万5千人を擁する県南西部の中堅の住宅都市として発展を遂げている。

■新座市人口・世帯数（令和6年4月1日現在）

- ・人口 166,038人
- ・世帯数 79,578世帯
- ・面積 22.78㎢

（世代別人口）

| 0～14歳   | 15～29歳  | 30～44歳  | 45～59歳  | 60～74歳  | 75～89歳  | 90歳～   |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 20,114人 | 24,725人 | 29,463人 | 39,980人 | 26,576人 | 22,830人 | 2,350人 |

■新座市不登校児童生徒の推移について

(1) 小学校

|        | 令和元年  | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全児童数   | 8,942 | 8,956 | 8,885 | 8,796 | 8,426 |
| 長期欠席者数 | 113   | 122   | 127   | 178   | 269   |
| 長期欠席割合 | 1.26  | 1.36  | 1.42  | 2.02  | 3.19  |
| 不登校児童数 | 84    | 99    | 106   | 149   | 185   |
| 不登校の割合 | 0.93  | 1.10  | 1.19  | 1.69  | 2.19  |

(2) 中学校

|        | 令和元年  | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全児童数   | 4,037 | 4,134 | 4,172 | 4,186 | 4,188 |
| 長期欠席者数 | 183   | 197   | 242   | 278   | 293   |
| 長期欠席割合 | 4.53  | 4.76  | 5.80  | 6.64  | 6.99  |
| 不登校児童数 | 145   | 166   | 208   | 240   | 241   |
| 不登校の割合 | 3.59  | 4.01  | 4.98  | 5.73  | 5.75  |

- ・要因として、登校不安、生活リズムの乱れ、親子の関わり方等が多い
- ・中学生は、友人関係の問題や学業不振等も多い
- ・小学校の割合が大きく増加しており、低学年からの不登校数が増えつつある

■新座市教育相談室について

(1) 勤務体制

- ・教員相談員5名（相談業務対応3名、ふれあいルーム担当職員2名）
- ・学校カウンセラー3名在籍（週3日（月・水・金）日替わり勤務）
- ・埼玉県スクールソーシャルワーカー1名
- ・新座市スクールソーシャルワーカー3名（週4日中学校、週1日教育相談室勤務）

(2) 開室日時

毎日 午前9時30分～午後6時

(3) 主な業務内容

- ・相談（対象：市内在住児童生徒、保護者）
- ・カウンセラーによるカウンセリング、発達検査
- ・教育支援ルーム「ふれあいルーム」運営

■教育支援ルームについて（市内2か所設置）

○ふれあいルーム：平成11年4月より開室

- ・毎日 午前10時～午後2時30分
- ・場所 教育相談室（新座市役所第四庁舎）2階
- ・指導者 教育相談室相談員2名、ピアサポーター（学生ボランティア）

○とことこぶらすのへや：令和5年9月より開室

- ・毎週金曜日 午後2時～午後6時
- ・場所 十文字学園女子大学内
- ・指導者 十文字学園女子大学教授、講師等3名  
新座市教育相談室相談員、新座市立第二中学校経論  
学生ボランティア

※マンツーマン並みに、手厚く対応している

○申請人数（申請は各学校経由）

（1）ふれあいルーム

|     | 平成30<br>年 | 令和元年 | 令和2年 | 令和3年 | 令和4年 | 令和5年 |
|-----|-----------|------|------|------|------|------|
| 小学校 | 11        | 21   | 40   | 45   | 35   | 36   |
| 中学校 | 17        | 15   | 10   | 22   | 34   | 29   |
| 合計  | 28        | 36   | 50   | 67   | 69   | 65   |

（2）とことこぶらすのへや（令和5年から開始）

小学校11名、中学校5名の合計16名

■新座市の主な不登校対策

学校として…

- ・新たな不登校を生まない魅力ある学校づくり
- ・誰もが分かる授業づくりの工夫
- ・学びたい時に学べる環境づくり（ICTの活用、校内支援ルーム等）
- ・ハートフルシートの作成（状況をかきくわえて、次年度につなげる）
- ・関係機関との連携

教育委員会として…

- ・教育支援ルームの設置、運用
- ・保護者の会の開催
- ・スクールソーシャルワーカー等の派遣
- ・教職員向けの研修（週2回、学校に行き学ぶ）

## ■とことこぶらすのへやについて

### (1) 開設の経緯

十文字学園女子大学は地域の拠点大学として、地域からの不登校児童・生徒に対する支援要請を受けて、令和5年9月に大学内における教育支援センター「とことこぶらすのへや」を設置した。

令和4年8月に十文字キャンパスリゾートを開催した。中学生までの子どもたちに対する学習支援や体験活動、遊びの機会を夏休みの大学の教室を利用して提供するもので、不登校親の会は「ママカフェ」を担当し、不登校相談も行った。



学期中、協働的な活動、体験活動などを1回は行うことを目標としている。

(参考)

| 14:00～14:40                                                                              | 14:45～15:30                                                                                             | 15:35～16:20                                                                                                               | 16:25～17:00                                                           | 17:05～17:50                                                                         | 17:50～18:00                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ウォーミングアップ</b><br>・順次児童生徒が登校<br>・体調や気分を確認<br>・やりたいことがあるか聞く<br>・話しながらゲームや遊び、製作など軽い活動をする | <b>各自の活動</b><br>・ウォーミングアップ活動の継続（製作、お絵かき、ゲームなど）<br>・他の児童生徒の活動に合流<br>・グラウンドに出て外遊び<br>・散歩など<br>※希望に応じて個別学習 | <b>コグトレ（認知）</b><br>・プリント教材を利用してコグトレを実施<br>・はじめは個別で、慣れてきたら少しずつ人数を増やしていく<br>・教材の中から児童生徒と相談をして取り掛かりやすいものから始める<br>※希望に応じて個別学習 | <b>カフェタイム</b><br>・おやつをたべながらお話をしたり、交流を深める<br>・学生と児童生徒、保護者も交えて、フリートークの場 | <b>コグトレ（身体）</b><br>・身体の使い方を身に着けるためのトレーニング<br>・指先の器用さを高める活動<br>・共同的な活動<br>・ゲーム性のある活動 | <b>片付け</b><br>・順次児童生徒が下校<br>・スタッフは後片付け<br>※終了後、振り返りの会（約15分）<br>・気づいたこと、気になることなどを共有 |

#### ※コグトレ

コグトレとは、認知機能を強化するトレーニング（Cognitive Training）の略称であり、覚える・理解する・想像するといった基礎学力の土台作りに加え、身体的な特徴や体の使い方などを身に着けるものである。

#### （7）課題

- ・申請しているが、来ない児童・生徒、つながりができていない児童・生徒への対応

#### （8）効果

児童・生徒においては、母子分離が難しかった児童の変化、負けても怒らない、泣いても立ち直るといったレジリエンス、コミュニケーションや自己肯定感の向上が見られた。

ボランティアを行う学生からは、専門的な学びにおける実習効果、他学年、他学科生徒の交流、自己肯定感の向上が図られた。

#### ■主な質疑応答

Q1：事業を始めた経緯とハードルについて伺う。

A1：【市教委】不登校の増加により、すでに設置されていた教育支援センター「ふれあいルーム」の狭隘化が懸念され始め、市内のどこか別の場所に増設したいと考えていた。別の場所にただ増設するのではなく、「ふれあいルーム」とは違う価値を持たせたいと考えていた。ハードルは、場所の確保と予算措置、人員確保である。

【大学】大学内での不登校に対する無理解が最大のハードルである。

Q 2 : 予算規模と財源について伺う。

A 2 : 【市教委】初年度（令和 5 年）は年度途中だったため、補正で予算計上し、マット、パーテーション等を購入した（21 万円程度）。令和 6 年度は、教育支援センターの消耗品費として 3 万円程度の予算がついている。

【大学】こどもの未来応援基金（令和 5・6 年度）を活用し、教材、おやつなどを年間 5 万円程度購入している。

※場所代、人件費は無料

Q 3 : 学生ボランティアの感想を伺う。

A 3 : 【大学】子ども達が毎週、少しずつ成長していく姿が活動のモチベーションになっている。学習面など様々な課題はあるが、今後も日々の活動を通して多くの子どもたちの居場所づくりに貢献していきたい。

Q 4 : 「ふれあいルーム」と「とことこぷらすのへや」への登校は、出席扱いとなるのか伺う。

A 4 : 【市教委】出席扱いとなる。

Q 5 : 「とことこぷらすのへや」を開室にあたり、大学側へはどのように理解を得たのか伺う。

A 5 : 【大学】色々な議論があったが、最終的に新座市の事業で行うことに理解（同意）を得た。

## （２）一般社団法人シモキタ園藝部

### ・官民連携での居場所づくりについて

小田急電鉄株式会社は、東京都と進めていた『小田急小田原線（代々木上原～梅ヶ丘駅間）連続立体交差事業および複々線化事業』において、上下線を同時に地下に切り替える工事を行い、東北沢、下北沢、世田谷代田 3 駅が地下駅となった。

30年以上前には小田急線の線路高架化を計画したが、住民の強い反対に遭い、訴訟を経て計画を見直し、世田谷代田～下北沢～東北沢の 3 駅間の約 1.7km 区間を地下化する方針で工事に着手。これにより、踏切で慢性的な交通渋滞を引き起こしていた 9 か所の踏切が無くなり、交通渋滞が解消された。2011年に世田谷区から地上は駐輪場とし、2階部分を立体緑地遊歩道にする計画が示されたが、これも住民からの強い反対があった。

地域住民はシモキタみどり部会という団体を設立し、アンケートを基に絵コンテを付けて対案を世田谷区に示した。結果として、立体緑地遊歩道計画は暫定的に凍結した状態で駅周辺のみ立体緑地化され、地中には柱の基礎も敷設されたままとなっている。この計画が復活する兆しは今のところない。

これまで線路として使われていた土地に関しては、2022年 5 月に一部区間を残して街開きを行い、緑地広場の基本設計を策定するにあたり、株式会社フォルクの代表を務める



三島代表が参画し、区民とのワークショップ等を通じて、その場所に込める地域の想いを具現化していった。その過程で市民団体として緑地広場を管理する一般社団法人シモキタ園藝部が設立された。

それからは、小田急電鉄と協働で取組を考え、世田谷区に提案と相談を行ってきた。現在は、小田急電鉄が敷地の一角に建屋を設置して賃貸契約を結び、活動拠点としている。緑地広場については世田谷区から小田急電鉄が受託。

一般的には管理業者が緑地整備を行うところだが、シモキタ園藝部の職員へ時給報酬を支払い、ボランティアメンバーへは金券を配布し、緑地整備を行っている。行政が行う一般的な緑地整備費用の約8割強程度で賄うことができている。

設立当時の初期メンバーの半数以上が現在も活動に参加しており、20名から始まったメンバーが現在は250名が参加している。緑地管理の他にも作業スタッフのリーダー研修として園芸教室を開催。半年間で6回開催し、4万円の費用がかかるが、受講者は36人おり、大きな収入源になっている。

また、親子参加で昆虫採集、緑地のお散歩探検、コンポストの設置、養蜂箱の設置などの様々な取組を行い、拠点に併設する喫茶店では、苗木、プランター、ハチミツ、ハーブティー、堆肥などを販売し、ボランティアに配布している金券などを使えるように循環型のサイクルを生み出した。

この循環により、地域住民が緑に触れ、使える植物を育てる行為が、地域への愛着や人のつながり、地域福祉などの社会課題の解決にも繋がり、一人一人がやりたいことの自己実現を叶える居場所になっている。

## 6 所感

### (1) 埼玉県新座市

とことこぶらすのへやは、空き教室や広い校庭等、大学の教育環境を生かすことで、不登校児童・生徒に必要な体験談や、体を動かす活動などを展開することができており、保護者等が共に参加していることで、保護者も含めた不登校児童・生徒の支援につながっている。また、とことこぶらすのへやに通うことで、学校への出席扱いとなり、活動報告をすることで、児童・生徒と学校のつながりを保つことができる。

学生は、児童・生徒と関わることで、やりがい・成果を実感し、将来の進路につながる可能性も考えられる。

新座市と大学との連携に信頼関係を感じ、ただの居場所づくりにはしないという支援への強い意気込みが伝わった。活動様子の動画を見せていただいたが、児童・生徒と学生が一緒になって笑っていて、通っている児童・生徒は、生き生きと明るい表情で、居場所として安心して過ごしていることが伝わった。

## (2) 一般社団法人シモキタ園藝部

普段何気なく目にしている緑地は整備が行き届いていないと景観を損ね、住民からの苦情も発生することは少なくない。ましてや、公的な場所の緑地に対して自分の手で整備していいものかもわからない方が多いと思う。時間も手もあるのに遠慮してしまっている方は石巻市でも少なくないのではないだろうか。

自分達で児童公園の草取りを行っただけでもその日1日を良い気分で過ごすことができるが、子どもたちが遊ぶ姿などが見られたら喜びもより大きくなる。

限られた予算の中で公共の場所の管理をプロの業者に任せることも妥当だとは思いますが、同じ金額であっても、市民一人一人の生きがいや幸福度の向上を上積みすることができたら、素晴らしいことだと思う。

課題としては、事業の持続性や後継者の育成などだが、シモキタ園藝部のように法人化をして、組織としての枠組みを作るには熱い情熱が必要であり、また、この事業ではステークスホルダーとして小田急電鉄の存在は大きいと思う。

人々のクオリティ・オブ・ライフの向上のために、本市でも是非取り入れてみたいと思うが、重要なパーツをもう少し集める必要があるように感じた。

## 7 調査による石巻市への政策提言等について

### (1) 埼玉県新座市

本市では、学校生活における様々な相談と児童・生徒一人一人に適した学習の支援に関する業務として、石巻市学びサポートセンターコイルを開設し、子どもの居場所づくりに取り組んでいるが、複雑化する社会の中で児童生徒の不登校は、年々増加傾向にあり、今後より一層の支援が必要と考える。

コイルの運営課題として、コイルに通う児童生徒数の増加により、狭隘化が懸念され始めているため、別の場所に増やしていく必要があり、新座市の事業を始めた経緯と同じような状態が起こっている。

本市には、石巻専修大学があり、まずは、不登校児童・生徒の安心できる居場所づくりについて大学側と新座市の取組を含めた協議を行い、学びにつなげられない子をゼロにしていくため、切れ目のない学びへの支援を提言する。



< 新座市での視察の様子 >



< 新座市議会議場 >

## (2) 一般社団法人シモキタ園藝部

公園など公共施設の在り方として、従来の行政の職責は地域住民からの要望に応える形で整備を行い、苦情が出ないように綺麗に整えることである。そこにゴールを置きワンステップで専門業者に頼むのは実にシンプルで早い。

しかし、今回のシモキタ園藝部の視察を通じて、公園などの公共施設の在り方として、そのプロセスを資源や機会と捉えており、根本的に違うと感じた。人々との関わりや生きがいつくりの観点を第一義と捉え、市民一人一人がまちづくりに参画し自己肯定感を高め、緑地整備のプロセスで社会福祉的な成果を狙い求めていくには、本来公園を管理する都市計画課のみならず、地域力の向上を目指す地域協働課や、ボランティア参加を促す保健福祉総務課など、市役所内でも横断的な認知と理解の取組が求められる。

そして最も重要なのが、シモキタ園藝部のような民間の事業運営者の育成だと感じる。石巻市でもウィーアーン北上という団体が、北上地区の津波浸水エリアの荒地に人の手を入れて森づくりを行っている。今年度より始まった中瀬南端部の緑地計画にも深く関わっているため、こういった団体を自立させられるまでの期間、支援していくことを提言する。

市内で1つモデルケースが確立されれば追従する団体や市民も現れると思う。シモキタ園藝部への視察は都市計画課でも伺ったと聞いているので、同じようなことを感じていることを望む。

8 調査経費 231,850円

## 9 添付書類

別添資料のとおり